

巣箱の話

巣箱とは

〇かたち

巣箱は、木でできた箱で、鳥が出入りする入り口として、鳥の種類に応じた穴を開けたものです。形はいろいろあります。

箱の中は、外が透けて見えないように暗くて、穴から下向きへ入るようになっていれば、どんなものでもよいのです。

巣箱は、ぐらぐらゆれないように、しっかりと木につけます。つける場所は、自立たない方が好ましいです。

〇利用する鳥

巣箱の大きさや出入り口の穴の大きさ（穴の直径）によって、利用する鳥は違います。利用する鳥の巣箱の大きさや穴の大きさの目安は、以下のとおりです。

鳥の種類	巣箱の大きさ			巣箱の穴の大きさ
	たて	よこ	高さ	
シジュウカラ、スズメ	15 cm	15 cm	20 cm	3 cm
ムクドリ	18 cm	18 cm	30 cm	4～5 cm
ブッポウソウ	21 cm	21 cm	35 cm	8～9 cm
アオバズク	25 cm	25 cm	45 cm	10～12 cm

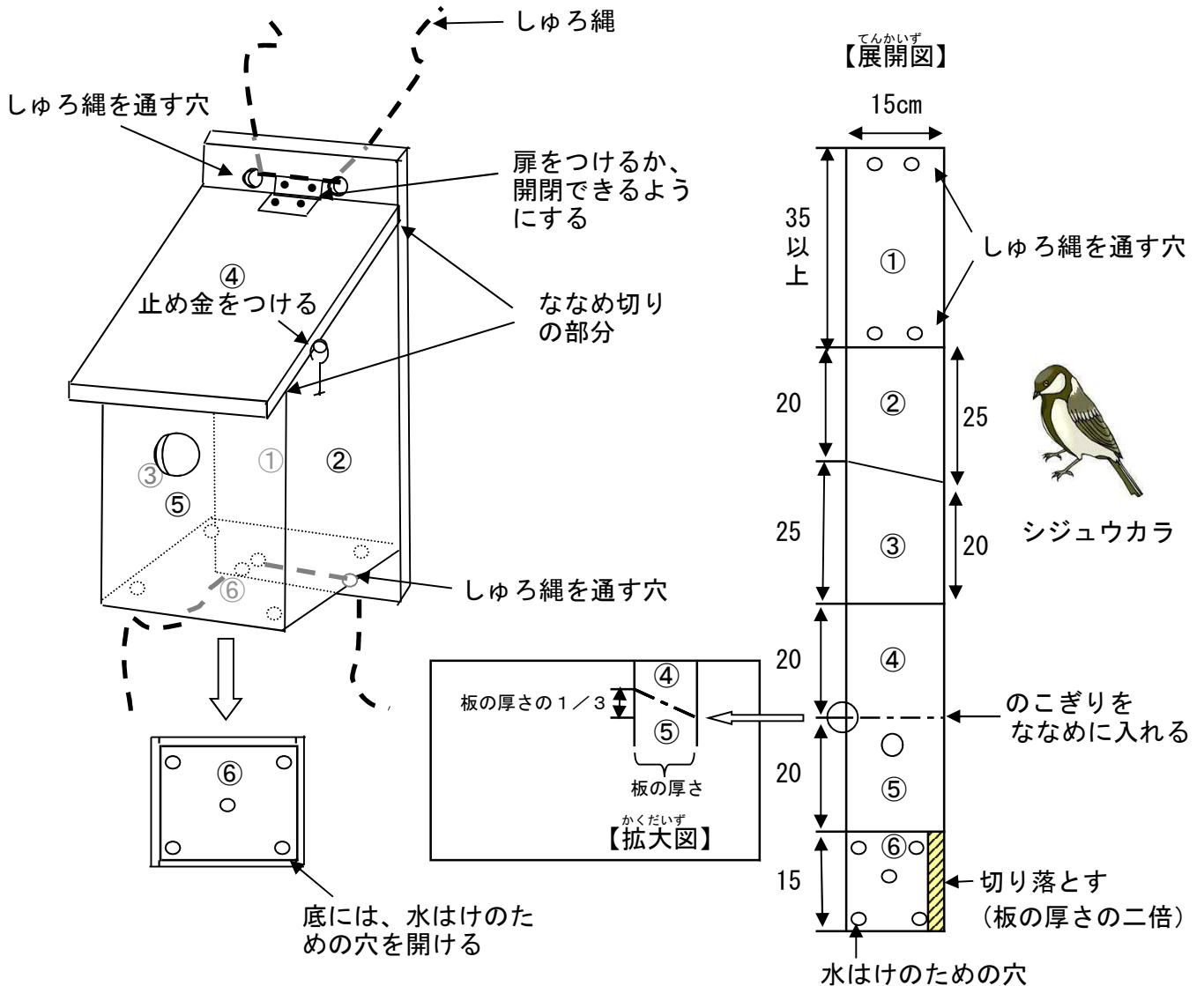
日本で繁殖する鳥のうち、巣箱を利用する鳥は、木の穴などに巣を作る、ごく一部の種類です。

巣箱の材料と作り方

〇巣箱を木で作るとき、気をつけること

- 板は、1.2 cmより厚い一枚板を使用し、合板（ベニヤ板など）は使わない。
- 巣箱の内部及び外部は自然の感じを出すために、かんなをかけたり、ペンキを塗ったりしない方がよい。
- 底には、必ず水はけのために穴をあけか、底板の四つの隅を切り落とす。
- 雨や風が入らないようにする。
- 巣箱の広さや出入り口の大きさは、鳥によって違う。
- 穴は、必ずしも丸でなくても良い。（四角でもよい）
- 利用後は、掃除をすることもあるので、扉をつけるか、屋根などを開閉できるようにする。
- カラスや風などによって、扉や屋根などが開かないように、止め金などをつける。
- 細い枝や、とがった葉、木の実などは、なるべくつけない。（鳥はいやがり、外敵などが侵入しやすくなる場合がある）
- 巣箱の中に、わらなどの巣材をなるべく入れない。（鳥によっては、いやがる場合がある）

基本型巣箱の作り方（シジュウカラ用）



巣箱をかけるところ

低い山の中の林の中に、巣箱をかければ、利用する鳥はシジュウカラ、ヤマガラであり、家の近くにかければ、スズメやムクドリが利用してくれます。

しかし、巣箱をかけても、すぐに鳥が利用するとは限りません。利用してくれるまで気長に待ちましょう。

巣箱をかける季節

小鳥たちが巣箱を利用するのは春から秋の繁殖シーズンです。この繁殖に季節までに巣箱は欠けておきます。

冬の初めに巣箱をかけておくと、雪の降る冬に、「ねぐら」として利用してくれるかもしれません。その巣箱が気に入れば、春には利用してくれると思います。